



市道朝日2号線拡幅

須藤 功

問 拡幅工事の工程は、どのようになっているか。

建設部長 圃場整備事業に合わせ、平成31年度に着手して早ければその年に完了まで持つていきたいと考えます。

問 幅が8.5mの道路を造るのであれば8.5mの橋に架け替えたほうが良いと思うがどうか。

建設部長 拡幅することで通過交通がより増加すると考えます。地域の安全面から、当面は現状のままとして橋梁の拡幅は考えません。

道路広げて橋はそのまま

問 橋の部分は4.5mで2台一緒に入れず、片側交互通行である。これでは安全のためと言えるのか。逆に危険ではないか。

建設部長 県道岩沼蔵王線までは短い距離しかありませんので、そこから簡単に通行、交互通行ができること、車が橋を通行することになり、そこは非常に危険です。現在もまだ危険であると認識しています。

問 片側しか通れないという狭い

道路を造るほうが、より危険性が増すと思う。岩沼市側が一方的に安全で良いと話をするのであれば、それは仕方がない。市長はこういう道路を造りたかったのか。

市長 道路は整備の状況を見ながら行っていますが、場合によっては橋を架け替える場合も出てくることもあり。現時点では、地域との話し合いを進めています。まず橋の手前までしっかりと道路を整備した後に、橋の架け替えになると考えます。

問 将来、橋を架け替えるとき、通行止めになる。後でまた無駄なお金が掛かるがどうか。

市長 橋と一緒に整備することが本当にいいのかどうか、もう少し地域の意向を踏まえながら進めていきたいと思っています。

◎その他の一般質問
・巨理地区行政事務組合との広域連携



フードバンク活動

飯塚 悦男

問 家庭や農家、食品会社などから食品を分けてもらい、生活が苦しい方に無償で配布するフードバンク活動が全国的に広がっていると思うがどうか。

市長 この活動は、品質あるいは食品に何ら問題のないものを活用するという点では、世界中に広まっており、日本でも注目を集めています。しかし、慢性的な在庫不足等があり、成熟していません。認識しています。

問 この活動は受け取る側のメリットとしては、食費が少し助かる。また、福祉施設では食費が削減され、その予算を教材費などいろいろな面に回せると思うがどうか。

市長 食費が軽減される世帯もあると思いますが、安定的に供給される必要がある。また、支援団体や支援する会社がないと軌道に乗れないのではないかと思えます。

環境負荷低減につなげる

問 提供する食品会社にもメリットがある。食品を廃棄するコスト

が抑えられるし、環境負荷の低減にもなる。また、会社のCSR活動にもつながるのではないかと。

市長 社会貢献という枠組みの中で捉えれば大変有効だと思いますが、これをつなぐ機能がないとだめだと思います。

問 行政側のメリットとして廃棄物の発生抑制になり、環境負荷低減になるのではないかと。

市長 規格に合わないものでも、食べることに問題がないので有効活用すべきであり、そのことが環境負荷につながる考え方は必要ではないかと思えます。

問 フードバンク団体との連携についての考えはどうか。

市長 食品を提供する出し手と受け手の問題もあり、しっかりとマッチングしないと、かけ声倒れになる可能性があり、団体との連携は非常に大切であると思えます。